

摂食嚥下障害学、地域言語聴覚学

准教授 松原 慶吾
Keigo Matsubara

現在の研究テーマと内容

地域に在住している方々の摂食嚥下機能について

超高齢社会に突入した我が国では、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる健康寿命をいかに伸ばすかについての関心が高まっています。健康寿命を延伸させるためには、いつまでも口からおいしく食事ができることが重要だと考えます。

口からおいしく楽しみながら食事を続けていくための効率的かつ効果的なサポートの実現を目的とし、摂食嚥下に関わる研究を行っています。

これまでの研究成果と今後の展開

私達は、地域に在住している方々の摂食嚥下機能とこれらに関連する諸機能（嚥下関連筋群の筋量、口腔機能、呼吸機能、身体機能、身体の筋量・筋力、生活全般活動、栄養状態）について包括的な調査を行い、摂食嚥下障害や機能の低下が疑われる方々の実態とその特徴について検討しています。さらに、この包括的な調査を継続して実施し、摂食嚥下機能とこれらに関連する諸機能の経年的変化について調査を行いたいと思っています。

大学院を目指すみなさんへメッセージ

口からおいしく「食べること」は、いつまでも健康で生きていくうえで大切なことだと思います。しかし、加齢に伴い「食べること」に必要な機能は低下してしまいます。加齢に負けず、いつまでもおいしく食べ続けるための方法を一緒に考えましょう！